



# 学校だより

令和5年1月31日

No. 11 2月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

## 活動の向こう側

校長 金子 博美

冬本番、冷たい風が吹くと、それをよけるように、つい背中を丸めて歩いてしまいます。それなのに、休み時間の校庭は、夢中で遊ぶ姿でいっぱいです。寒くなっても変わらず子どもたちは、元気です。

1月17日(火)、一日限定の「クイズやさん」を開催しました。朝会で出題、回答者は子どもたち。クラスで一つの答えにすること。正解を判定するのは1年生。その時の問題がこちらです→

学校のゴール(3月24日)まで、  
後期は42日です。  
6年生は何日でしょう。

実はその一週間前に「数えたクラスは、教えてください」と発信したのですが、3日たっても動きがありませんでした。学校内を回っていた時に立ち寄った1年生のクラスで、未だに誰も答えを数えていないことを相談すると、「じゃあ、僕たちがやります!」と元気に答え、翌日には代表の子どもたちが「42日でした」と校長室に結果報告にやってきました。するとそのうちの一人が、「あ、そうか。6年生は卒業するから、これ(42)じゃない」と何かひらめいた様子で言いました。「卒業式って、いつ?」と、一緒にきた三人が次々にその場で話し始めました。卒業式は3月17日。校長室の机にカレンダーを置いてその日に印をつけると、「4ひけばいいんだ!」「もう一回数えてみよう」と。「数字を発表するときに、せっかくだから、6年生は日にちが違うことをクイズにしたらどうかな」と投げかけると、「それ、いい!」と快諾。続けて、「でもクイズを出して、みんなが答えを校長室に言いに来て、校長先生がいない時もあるかもしれない。答えを聞くお仕事をやらしてもらえないかな」と頼むとそれも快諾でした。「うん、わかった。みんなにも相談してみる」と、とてもいい顔でした。~というわけで、1年生が「クイズやさん」として開店することになりました。担任に聞いたところ、校長室から戻った三人は、みんなに一部始終を伝え、相談しながら準備をして、もしお客さん(答えを言う人)が来たらどうするかを想像しながら役割を決めて練習もしたそうです。当日、予定通り、朝会で出題。『クイズやさん』に「今日一日、全校のみんなのためにお願いします」と声をかけると、「はい!」「がんばります!」とピンと背を伸ばして答える子が何人もいました。お昼に教室をのぞくと、「5年生が一番初めに来てくれました」「2年生は、あと一クラスです」「4年生はまだ来ないけど、行ってあげた方がいいのかなあ」など、相手の行動や都合も想像し、楽しそうに話していました。~もちろん、全学級回答、正解でした。驚いたのは、活動後です。「楽しかった」「来てくれた人にお礼が言いたい」という振り返りの声がたくさんあったと担任から話がありました。私にも「校長先生、『クイズやさん』を頼んでくれて、ありがとうございました」と輝くような笑顔で言うのです。仲間と協力し、みんなに喜んでもらえた満足の表情でした。

誰かのために役立ったり、そのために協力したりすることは、共通の目的があり、必要だからこそするものです。理由もないのに「役に立ちなさい」「協力しなさい」と言われてできるものではありません。「~しなさい」が先ではなく、その価値に気付くための「何か」がまずあること。「何か」とは、活動やかかわりです。その結果を通して、子どもたちが活動やかかわりの向こう側にある「役立つこと・協力することの大切さ」に気づき、そのよさを受け容れます。学校や学級は、そういう場でありたいものです。



〈残りの日数は、毎日変えています♪〉